



**NIFTS NEWS**  
**No.16**

National Institute of Fruit Tree Science

# 果樹研究所 ニュース

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構



モモ「もちづき」

|                                                               |   |
|---------------------------------------------------------------|---|
| 巻頭言 .....                                                     | 2 |
| 組織紹介 .....                                                    | 3 |
| 〈研究の紹介〉                                                       |   |
| ジベレリン処理によるブドウ肉質の変化<br>.....                                   | 4 |
| 高糖系ウンシュウにおける強枝梢の<br>摘葉による優良結果母枝の確保<br>.....                   | 5 |
| 〈トピックス〉                                                       |   |
| 「健康増進に役立つカンキツ品種・加工品<br>フェア」報告<br>科学技術週間「一般公開」報告（つくば）<br>..... | 6 |
| 研修生入所<br>表彰・受賞<br>海外出張報告<br>.....                             | 7 |
| 〈掲示板〉                                                         |   |
| 人事異動・果樹研究会等・海外渡航・依頼研究員<br>.....                               | 8 |

## 巻頭言

### 健康で潤いのある食生活と 果樹農業を支える果樹研究

今日の果樹栽培の多くは、明治初期の海外からの導入・配布が土台となっていますが、組織的な研究は、明治35年の農商務省農事試験場園芸部の創設に始まり、以来園芸試験場、果樹試験場、そして独立行政法人農研機構果樹研究所へと100余年間引き継がれてきました。この間、昭和10年代の地道な交配育種は、戦時中の困難な状況も乗り越え、30年代にはリンゴ「ふじ」、カンキツ「興津早生」、ナシ「幸水」などの代表的品種を世に出し、果樹農業の振興と生活にフルーツをもたらしました。その後も、カンキツ「清見」、ナシ「豊水」、クリ「国見」など100以上の品種を開発し、リンゴわい化栽培やナシやブドウの棚栽培、ジベレリンによる無核ブドウ栽培など、わが国の条件に適した技術を公立試験場等とも連携し開発・普及し、農業粗生産額の9%を占める果樹農業を支えています。

現在の果樹農業は、担い手や園地の高齢化など問題山積ですが、栽培履歴や糖度表示など品質重視の生産情報、季節の果実でにぎわう直売所、果実加工製品など、生産者の工夫も盛んです。しかし、果物消費量は年々減っており、皮剥きが面倒、汚れる、高いなど若者の消費減が顕著で、果物を知らず、食べない子供も増えています。果樹研究所では、深刻な生活習慣病の急増や栄養バランスの崩壊などの中で、ビタミン、栄養成分に加え、ウンシュウミカンに高含有のβ-クリプトキサンチンやシークワシャーのノビレチン、リンゴのペクチンなど果物の健康機能性の解明と向上や新品种の開発を加速し、「毎日200グラムの果物を食べよう」を掲げ、おいしく食べながら健康維持や生活習慣病の予防をとアピールしています。

平成18年4月、農研機構は、農村工学研究所、食品総合研究所、農業者大学校を加え農業・食品産業技術総合研究機構として農業基盤から生産・消費まで一貫した技術開発を担う独法として第2期をスタートしました。140余の重要課題を研究チーム制で担い、果樹研究所は、新品种育成、高品質・省力・環境調和型生産技術や鮮度保持技術、温暖化対応技術、カンキツグリーンング病防除技術などの開発、果樹ゲノム解析やDNAマーカー開発、果物の健康機能性解明など、11研究チームと1サブチームを擁し、また、果樹遺伝資源の収集調査や、果樹農業後継者の育成を継続しています。生産から流通消費に至る安全や信頼の確保、環境負荷やコスト低減、DNA品種識別の実用化、新たな侵入病虫害抑制や果実の輸出拡大への対応なども重視しています。

つくば市を始め、樹種別の適地である盛岡市、静岡市興津、東広島市安芸津、南島原市口之津の5箇所に拠点を置き、研究の推進と成果の迅速な普及へ、国内外の大学、研究機関、行政、生産・流通加工関係者などとの連携を強化していきます。研究所の活動状況は、「果樹研究所ニュース」「ホームページ」や「研究会」「一般公開」などで発信し、「いつでも新たな情報と素材に触れることのできる果樹・果物の専門研究所」として期待に応えていきたいと考えます。

所長 駒村研三



## 新組織の紹介

平成18年度から第2期中期計画がスタートし、新しい体制となりましたので概要をご紹介します。

今までの研究部→研究室体制から、研究チーム制を採用し、フラットで柔軟な組織体制としました。12の研究チーム（1サブチームを含む）は、5カ年間の中期計画に示された研究課題

に責任を持って対応していくこととしています。

また、産学官連携、研究交流等の業務をより円滑に推進するため企画管理部門の強化や、遺伝資源に関する研究を実施する遺伝資源室及び研究支援業務を研究支援センターに一元的に配置しました。

新たな組織と各研究チームが推進する課題は、次のとおりです。

所  
長

**企画管理部** 部長、審議役、研究調整役、業務推進室、管理課、情報広報課、養成研修課（3課）

**研究管理監** [本所、盛岡、興津、安芸津]

**カンキツ調整監** [口之津]

**ナシ・クリ・核果類研究チーム** [本所]

（食味が良く栽培性に優れるニホンナシ、クリ、核果類の新品種の育成）

**ブドウ・カキ研究チーム** [安芸津]

（ブドウ、カキにおける食べやすく肉質等が優れる優良品種の育成及び着色機構解明等による高品質生産技術の開発）

**カンキツ研究チーム** [口之津]

（カンキツにおける高糖度で種なし性等を備えた良食味品種の育成及び結実管理等による生産安定技術の開発）

**リンゴ研究チーム** [盛岡]

（リンゴにおける栽培性が優れる良食味品種の育成及び低樹高栽培等による省力生産技術の開発）

**果樹害虫研究チーム** [本所、安芸津、口之津]

（天敵等を用いた果樹害虫の制御・管理技術の開発）

**果樹病害研究チーム** [本所、盛岡、安芸津、口之津]

（果樹の紋羽病等難防除病害抑制のための要素技術の開発）

**果樹温暖化研究チーム** [本所]

（気候温暖化がもたらす果樹生産阻害要因の解明とその対応技術の開発）

**カンキツグリーニング病研究チーム** [本所、口之津]

（気候変動に対応したカンキツグリーニング病の分布拡大阻止対策の構築）

**果樹ゲノム研究チーム** [本所、興津]

（果樹の育種素材開発のための遺伝子の機能解析及びDNA利用技術の開発）

**健康機能性研究チーム** [興津、本所]

（カンキツ・リンゴ等果実の機能性成分の機能解明と高含量育種素材の開発）

**果実鮮度保持研究チーム** [本所、興津]

（果実の輸出等を促進する高品質果実安定供給のための基盤技術の開発）

**省農薬リンゴ研究果樹サブチーム** [盛岡]

（フェロモン利用等を基幹とした農薬を50%削減するりんご栽培技術の開発）

**研究支援センター** 育種情報調査役、遺伝資源室、業務科（2科）

## コラム

### 「身近にあります果樹研究所(1)」ーナシ「幸水」・「豊水」のはなしー

ニホンナシには、「青ナシ」と「赤ナシ」があります。青ナシの代表と言えば「二十世紀」ですが、赤ナシの代表は、やはり「幸水」・「豊水」でしょう。

幸水は昭和34年、豊水は昭和47年にいずれも当研究所で育成され、ニホンナシの栽培面積の62%（平成15年果樹農業に関する資料）を占める主力となっています。最近では、赤ナシ「あきづき」、青ナシ「秋麗（しゅうれい）」・「なつしずく」など優秀な子孫が続々誕生しています。これらも近い将来市場を賑わしていることでしょう。



幸水（こうすい）



豊水（ほうすい）

## 研究紹介



ナシ・クリ・  
核果類研究チーム  
佐藤 明彦

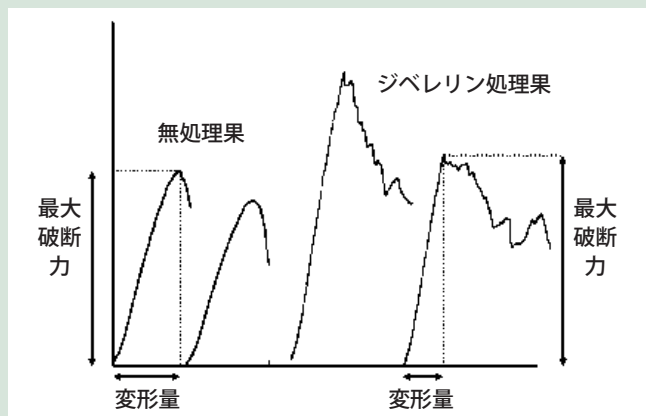
## ジベレリン処理によるブドウ肉質の変化

ジベレリンは、植物の生長に関わる植物ホルモンの一種で、植物体内で広く存在しています。外部から果実や花などに与えたジベレリンには単為結果（種なし化）の誘起という作用があり、果樹生産においてはこの性質を利用して生理落果を防止したり、種なし果物を作るといった目的で利用されています。ブドウ栽培においても、開花前後の決まった時期に花房をジベレリン溶液に漬けることによって種なし化や果粒肥大を促すことができます。ジベレリン処理はデラウェア、ピオーネ、巨峰といった日本の主要品種の種なし化と大粒化に大きく貢献しており、ジベレリンなくしては現在のブドウ栽培は成り立たないといっても過言ではありません。

今述べたようにジベレリンは植物に広く認められる物質ですが、人工的に合成したジベレリンを使用する際には、その使用できる植物種や品種、濃度、時期、目的などが農業として定められています。ブドウにおける使用目的のなかには、今述べた種なし化、果粒肥大促進ほかに、品種によっては着粒促進などが挙げられています。しかしブドウ栽培者の間には、これらの効果の他に、ジベレリン処理を行うと果肉の食感が変わることが経験的に知られています。「果肉が硬くなる」あるいは「しまった肉質になる」と言う人もいます。ブドウにおいては、噛み切れやすく硬い肉質が高品質で高い評価になりますが、このような肉質を持つ品種はマスカットオブアレキサンドリアのような欧州ブドウにしか認められず、日本で露地栽培可能な雑種ブドウには一部の品種を除い

てありません。もしジベレリン処理によって肉質が向上できれば、種なし化、大粒化と肉質の改善を同時に行うことも可能になります。しかしその変化を定量化した成績は今までありませんでした。そこで、私たちが開発した肉質の測定方法を用いて、ジベレリン処理果と無処理の肉質の比較を行いました。

ジベレリンの処理時期は、ピオーネなどと同じ基準である満開期と満開約2週間後を目安に行い、収穫期にジベレリン処理果と無処理果の肉質を測定しました。肉質の測定は、レオメーターという機械を用いて円筒形の針を一定速度でブドウの果肉に突き刺し、その際の抵抗を経時的に測定する「貫入試験」によって行いました。この試験では、針が果肉に突き刺さってから最初に組織が壊れるまでの距離（以下変形量とします）が果肉の噛み切れやすさを、もっとも大きな抵抗（以下最大破断力とします）が果肉の硬さの指標であることが今までの研究で分かっています。そこで変形量と最大破断力に注目し、その比較を行いました。14品種・系統について調査したところ、ジベレリンによる変形量の変化は品種によって異なり、噛み切れやすくなる品種、噛み切れにくくなる品種、変化がない品種がありました。一方最大破断力においては、ジベレリン処理果のほうが無処理果より全体的に大きくなり、硬くなる傾向が認められました。しかしその反応は品種によって異なり、なかには軟らかくなる方向へ変化する品種もありました。例えば「サニールージュ」では変形量は小さくなる方向へ、最大破断力は大きくなる方向へ働きました（図）。これはジベレリン処理によって肉質が良くなる方向へ改善されたことを意味しています。もともと肉質がよい「シャインマスカット」においては、変形量は変化しませんでした。確認のために糖度や酸含量も調査しましたが、ジベレリン処理果と無処理果ではその差は認められず、硬さの向上は熟期の違いによるものではないこともわかりました。これらの点から、ジベレリン処理は種なし化、大粒化と同時に、品種によっては肉質が良くなる方向に変化し、よりおいしいブドウが得られる可能性があることが明らかになりました。



図「サニールージュ」における無処理果とジベレリン処理果の肉質の違い。



元・カンキツ研究部  
育種研究室  
稗園 直史

## 高糖系ウンシュウにおける強枝梢の 摘葉による優良結果母枝の確保

ウンシュウミカンの生産量はピーク時の3分の1にまで減少したにもかかわらず依然として供給過剰であり、不景気の影響もあって価格が低迷しています。生産者サイドは、量よりも質を求める消費者ニーズに対応して、高品質でより単価の高い品種への転換を進めてきました。そこで増殖されたのが、「青島温州」に代表される「高糖系ウンシュウ」という糖度が高い品種です。高糖系ウンシュウは、中玉果を生産できれば高糖度となり本来の特徴を発揮できますが、一方では、果皮が粗くじょうのう膜（いわゆる袋）が硬い大玉果になりやすい上に、樹勢が強く隔年結果が激しいという欠点も併せ持っています。そのため、一部の産地を除けば高品質果実の連年安定生産ができていないのが現状です。そこで、高品質果実の連年安定生産を実現するために、高品質果実の着生する枝の形態を明らかにするとともに、優良な結果母枝を多く確保するための枝梢管理法を検討しました。

まずはじめに、花を毎年確実につける枝の形態を検討しました。細い枝（基部径が3mm未満）では太い枝（基部径が3mm以上）に比べて、春季に発生する発育枝の比率が低く、花の比率が高くなります。また、水平および斜めの枝は直立の枝よりも花の比率が高くなります。したがって、連年結実には水平および斜め向きの細い弱枝梢を多く確保する必要があることがわかりました。

次に、高品質果実はどのような枝に着生しているかを検討しました。大玉果（8月下旬の横径が約60mm）は60%以上が5葉以上の有葉果（新葉を伴う果実）であるのに対し、中玉果（8月下旬の横径が約50mm）は60%以上が直果（新葉を伴わない果実）です。また、中玉果の果こう枝および母枝は大玉果のそれに比べ、短く細く、発生角度は水平から下向きに近いものが多くなります。したがって、高品質となる中玉果の生産には直果や4葉以下の有葉果を着生しやすい短く細く、しかも水平から下向きの弱枝梢を多く確保する必要があることがわかりました。

以上のように、高品質となる中玉果の連年安定生産には短く細い弱枝梢を多く確保する必要があることがわかりましたので、次に、そのような弱枝梢を確保する枝梢管理法として、冬季の摘葉を検討しました。太く長い強枝梢に対して冬季に

全摘葉を行うと、無処理の枝に比べて翌年の発育枝（落花（果）した有葉花（果）の果こう枝を含む）が増加し、特に、優良な結果母枝となる4～10cmの短く細い発育枝が著しく増加します。したがって、太く長い強枝梢を冬季に摘葉することで、翌春に短く細い弱枝梢を多く確保でき、高品質果実の連年生産が可能になることがわかりました。なお、翌年が着花過多と予想される時は摘葉に先端2、3芽の切り返しを組み合わせると、弱枝梢の増加だけでなく春季の着花減少と発育枝増加効果も期待できます。

高糖系ウンシュウの高品質果実の連年安定生産のための枝梢管理法として摘葉を紹介しましたが、摘葉の目的は次年度の優良な結果母枝を確保するだけでなく、枝数を多くして強枝梢が発生しないような落ち着いた樹相にすることです。そのため、摘葉は1年だけでなく、弱枝梢が多く発生する樹相になるまで毎年繰り返し行う必要があります。なお、有葉果の果こう枝のうち、太く直立したものでは摘葉の効果が小さく強枝梢が発生しやすいので、基部から剪除します。最後に、高糖系ウンシュウの高品質果実の連年生産には摘葉のみでなく着花確認後（4月中下旬）の弱剪定、5葉以上の有葉花摘らい、9月以降の大玉果中心の摘果など、総合的な栽培管理が必要であることを付け加えておきます。



摘葉によって発生した優良な結果母枝

## キーワードは健康増進・ $\beta$ -クリプトキサンチン 「健康増進に役立つカンキツ品種・加工品フェア」報告

カンキツ研究興津拠点・健康機能性研究チーム 矢野 昌充

カンキツは健康増進成分に富む食物で、実際にヒトの健康に役立つことを証明する疫学研究データも蓄積しています。しかし、カンキツが健康増進に役立つことは、消費者には勿論、果物販売関係者や生産者にさえも十分には知られていません。そこで、果物関係者にカンキツの健康増進作用について理解を深めていただくための催しを、果樹研究所などによる「カンキツの機能性成分を活用した保健機能食品の開発」プロジェクトの成果発表会と近年開発されたカンキツ品種の展示会として開催しました。果樹研究所など3機関の共催です。大阪市中央卸売市場本場（平成18年3月1日）、東京都中央卸売市場大田市場（3月7日）の会場には、果物販売関係者や生産者を中心に約1000名の参加者がありました。

講演では $\beta$ -クリプトキサンチンやシクワシャールの保健機能、展示では完熟収穫の「デコボン」、 $\beta$ -クリプトキサンチンの多い「せとか」、機能性成分に富む「カンキツ中間母本農6号」などに注目が集まりました。研究成果のパネルでの

紹介も行い、カンキツの消費拡大に向け、「健康増進に役立つ食品としてのカンキツ」を消費者にアピールする必要性を理解していただけたと考えます。講演要旨、展示カンキツ品種一覧など関連資料がご入用の方は筆者まで請求下さい。



吉田俊雄素材開発研究室長（当時）による「機能性成分高含有カンキツ作出」の講演

## 「みつけよう花と果物の不思議」をテーマに花き研究所と合同開催 —科学技術週間「一般公開」報告（つくば）—

本所（つくば）の一般公開が、「みつけよう花と果物の不思議」をテーマに、花き研との合同にて4月19日（水）に開催されました。お天気にも恵まれて、昨年より300人多い2,294人ものお客様に来場していただきました。

内容は昨年に準じた形式で行い、第1会場（果樹研究所・参観者講話室）ではミニ講演会を行いました。花き研と合同で計3回の講演が行われ、当所からはメタボリックシンドロームという聞き慣れない言葉をテーマに、たくさんの方に興味を持って頂きました。

展示については、第2会場（果樹研究所・会議室）、第3会場（花き研究所・会議室）の2か所で行いました。展示コーナーは「果物・花の品種改良」など6つのテーマに沿って果実・花の品種などの現物や説明パネルを展示しました。また、技術専門職員による接ぎ木技術実演コーナーを設け、鮮やかなテクニックが披露され、注目を集めていました。技術相談についても例年どおり回答待ちのお客様が列を作ってい

ました。

その他には今年も「クイズラリー」を行い、クイズに答えながら、スタンプ（果樹研究所と花き研究所のマーク）を押してもらい、ラリーを完走した方にはプレゼント（みかんジュースとゼラニウムの苗）をお渡ししました。



## 平成18年度 農業技術研修生 18名入所

今年度の入所生は、つくば5名、興津6名、口之津7名の計18名です。

2年間という長いようで短い時間ですが、自分たちの将来を見据えて充実した研修生活を送ってもらいたいと思います。

また、果樹研究所農業技術研修制度は、明治39年に源を

発し、平成17年で100年目を迎え、間もなく始まる来年度募集の研修生は通算102期生となります。

今後も、全国各地で果樹農家の指導的な役割と我が国の果樹産業の振興に大いに貢献していただける様、果樹研究所ではたくさんの研修生を受け入れ、育てて行きたいと思っています。

## 表彰・受賞

西浦昌男 元果樹試興津支場長が「カンキツ類の珠心胚利用及び交雑による新新品種の育成」で第22回日本農業研究所賞を受賞

元果樹試験場口之津支場長、興津支場長の西浦昌男氏が「カンキツ類の珠心胚利用及び交雑による新品種の育成」の業績により第22回日本農業研究所賞を受賞し、去る5月10日授与されました。同賞は、農業に関する学術研究上顕著な業績を上げ、斯学の発展に多大な貢献をなした者に授与される賞で、珠心胚形成を利用した早生ウンシュウミカン「興津

早生」、「三保早生」等の新品種育成、及び「清見」タンゴールの育成に代表される業績が評価され、日本のカンキツ産業の発展と消費者に優良な品種を提供した功績としても高く評価されています。同賞の受賞は、果樹研では、第5回定盛昌助氏「リンゴの優良品種ふじの育成に関する研究」以来です。



## 海外出張報告

### 遺伝子データベースに新たな発展

植物オントロジー アノテーションキャンプ／ワークショップ報告：米国

カンキツ研究興津拠点・果樹ゲノム研究チーム 藤井 浩

植物オントロジーコンソーシアム（POC）が主催する植物オントロジーアノテーションキャンプ／ワークショップに出席しました。このワークショップは米国ニューヨーク州イサカ市にあるコーネル大学で2006年5月30日から6月1日までの3日間開催されました。

最近、さまざまな植物で遺伝子データベースが作られています。このため、遺伝子データベースどうしを比較することによって、植物間で遺伝子の発現の違いをコンピュータ上で網羅的に調べることも可能になってきました。ところが、遺伝子が収集された組織（構造）や成長段階の用語が植物間で統一されていないために、構造や発育段階も考慮した比較が難しいことがわかりました。そこで、さまざまな植物で相同的植物構造や成長段階に共通の定義と整理番号を与えることによって、計算機的に遺伝子データベースの比較を可能にするという「植物オントロジー(Plant Ontology ; PO)」が考

え出されました。私は、POをうまく使えば、果樹研で発現遺伝子の大量解析を行い、作成しているカンキツやニホンナシ、リンゴの遺伝子データベースを正確に比較できるようになると考えて、今回のワークショップに参加しました。ワークショップでは、POに対する参加者の認識を共通化するためのプレゼンテーションと討議を行ったほか、実際に各植物の遺伝子にPOを割り当てる作業（キュレーション）を行いました。今回のワークショップには、POCのメンバーとイネ、コムギ、オオムギ、トウモロコシ、ソルガム、トマト、カンキツで遺伝子データベースを作成している担当者の合計12名が参加しました。カンキツ分野からの出席者は私のみでしたので、POCでのカンキツ遺伝子に関するキュレータを担当することになりました。POは、まだ発展途上の新しい考え方で、POCは協力者を求めています。興味のある方はご連絡ください。

人事異動名簿

(平成18年1月1日～平成18年6月30日)

| 異動年月日<br>《転任》 | 氏名     | 新                                          | 旧                                      |
|---------------|--------|--------------------------------------------|----------------------------------------|
| 18.4.1        | 駒村 研三  | 所長                                         | 東北農業研究センター企画調整部長                       |
|               | 森脇 直人  | 企画管理部 審議役                                  | 農林水産省 中国四国農政局<br>愛媛農政事務所長              |
|               | 森永 邦久  | 企画管理部業務推進室長                                | 近畿中国四国農業研究センター<br>総合研究部総合研究第2チーム長      |
|               | 村上ゆり子  | 研究管理監(本所)                                  | 農林水産省 農林水産技術会議事務局<br>研究開発企画官           |
|               | 増元 勝秀  | 企画管理部 管理課庶務チーム長                            | 畜産草地研究所総務部会計課課長補佐                      |
|               | 齊藤 智恵子 | 企画管理部 管理課庶務チーム(厚生)                         | 花き研究所総務課(用度係)                          |
|               | 菅原 和幸  | 企画管理部 管理課会計チーム主査(資産管理第1)                   | 花き研究所総務課会計係長                           |
|               | 田中 敏浩  | 企画管理部 管理課会計チーム主査(資産管理第2)                   | 花き研究所総務課用度係長                           |
|               | 濱崎 洋好  | 企画管理部 管理課興津管理チーム長                          | 近畿中国四国農業研究センター<br>総務部会計課予算係長           |
|               | 我部山 知士 | 企画管理部 管理課安芸津管理チーム主査(庶務)                    | 近畿中国四国農業研究センター<br>総務部庶務課(人事係)          |
|               | 井上 亜紀子 | 企画管理部 情報広報課課長補佐                            | 農業・生物系特定産業技術研究機構<br>総合情報管理部情報管理課情報企画係長 |
|               | 小林 明美  | 企画管理部 情報広報課情報管理係                           | 花き研究所総務課(会計係)                          |
|               | 増田 昇利  | 企画管理部 養成研修第1課教務専門職                         | 作物研究所総務課庶務係長                           |
|               | 岩波 徹   | カンキツグリーニング病研究チーム<br>上席研究員                  | 九州沖縄農業研究センター<br>地域基盤研究部病害遺伝子制御研究室長     |
|               | 杉澤 尚登  | 研究支援センター業務第1科                              | 農業者大学校落葉果樹農業研修所研修課                     |
|               | 丸田 理一  | 農業・食品産業技術総合研究機構 総合企画調整部<br>企画調整室調整班業務推進室長  | 企画調整部連絡調整室企画班企画調整<br>係長                |
|               | 村谷 安雄  | 中央農業総合研究センター研究支援センター<br>業務第1科科長補佐          | 企画管理部 養成研修第1課教務専門職                     |
|               | 川村 作治  | 中央農業総合研究センター企画管理部<br>北陸企画管理室調査役            | 総務部庶務課課長補佐                             |
|               | 可知 昇   | 農業・食品産業技術総合研究機構統括部財務課<br>課長補佐              | 総務部興津総務分室長                             |
|               | 藤原 孝昭  | 東北農業研究センター企画管理部管理課<br>会計チーム専門職(審査)         | 総務部盛岡総務分室(会計係)                         |
|               | 三嶋 和正  | 近畿中国四国農業研究センター企画調整部管理課<br>庶務チーム主査(労務・職員管理) | 総務部安芸津総務分室庶務係長                         |
|               | 中野 直樹  | 農業・食品産業技術総合研究機構総合情報管理部<br>知的財産センター技術移転係    | 総務部安芸津総務分室(会計係)                        |
|               | 本多 親子  | 農業・食品産業技術総合研究機構総合企画調整部<br>研究調査チーム主任研究員     | 生理機能部主任研究官<br>(形質発現研究室)                |
|               | 足立 嘉彦  | 東北農業研究センター省農業リンゴ研究チーム<br>主任研究員             | 生産環境部主任研究官<br>(病原機能研究室)                |

| 異動年月日<br>《採用》 | 氏名     | 新                                         | 旧                        |
|---------------|--------|-------------------------------------------|--------------------------|
| 18.4.1        | 河野 敦   | 企画管理部業務推進室企画チーム<br>(18.6.1 ブドウ・カキ研究チーム)   |                          |
|               | 野中 圭介  | 企画管理部業務推進室企画チーム<br>(18.6.1 カンキツ研究チーム)     |                          |
|               | 根角 博久  | 研究支援センター遺伝資源室上席研究員                        | 長崎県果樹試験場育種科長(参事)         |
|               |        |                                           |                          |
| 《転籍》          |        |                                           |                          |
| 18.4.1        | 谷田部 知子 | (独)国際農林水産業研究センター企画調整部<br>広報室情報資料科専門職(管理係) | 企画調整部情報資料課専門職<br>(情報管理係) |
|               |        |                                           |                          |
| 《定年退職》        |        |                                           |                          |
| 18.3.31       | 田口 峻   | 企画調整部 業務第2科 科長補佐                          |                          |
|               | 林田 末喜  | 総務部 口之津総務分室(庶務係)                          |                          |
|               | 吉田 俊雄  | カンキツ研究部素材開発研究室長                           |                          |
|               |        |                                           |                          |
| 《退職》          |        |                                           |                          |
| 18.3.31       | 平岩 真一  | 総務部長                                      |                          |
|               | 壽 和夫   | リンゴ研究部長                                   |                          |
|               | 藤澤 弘幸  | 東京農業大学                                    |                          |
|               | 袴田 直史  | 長崎県果樹試験場                                  |                          |
|               | 奥田 均   | 三重大学                                      |                          |
|               | 白石美樹夫  | 福岡県農業総合試験場                                |                          |
|               |        |                                           |                          |

果樹研究会等

(平成18年1月1日～平成18年6月30日)

| 研究会名                         | 主催機関及び共催機関         | 開催年月日      |
|------------------------------|--------------------|------------|
| 第2回火傷病研究連絡協議会                | 果樹研究所・火傷病研究連絡協議会   | 18.1.23    |
| 平成17年度寒冷地・落葉果樹合同研究会(病害分科会)   | 果樹研究所              | 18.1.24～26 |
| 平成17年度落葉果樹研究会(栽培・土壌肥料分科会)    | 〃                  | 18.1.25～26 |
| 平成17年度落葉果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会  | 〃                  | 18.1.25～26 |
| 平成17年度落葉果樹研究会(虫害分科会)         | 〃                  | 18.1.25～26 |
| 平成17年度常緑果樹研究会(病害分科会)         | 〃                  | 18.1.26～27 |
| 平成17年度常緑果樹研究会(虫害分科会)         | 〃                  | 18.1.26～27 |
| 平成17年度寒冷地果樹研究会(全体会議)         | 〃                  | 18.2.1     |
| 平成17年度寒冷地果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会 | 〃                  | 18.2.1～2.2 |
| 平成17年度寒冷地果樹研究会(栽培分科会)        | 〃                  | 18.2.1～2.2 |
| 平成17年度寒冷地果樹研究会(虫害分科会)        | 〃                  | 18.2.1～2.2 |
| 平成17年度常緑果樹研究会(育種・栽培・土壌肥料分科会) | 〃                  | 18.2.1～2.2 |
| 平成17年度寒冷地果樹研究会(土壌肥料分科会)      | 〃                  | 18.2.2     |
| 果樹試験研究推進会議                   | 〃                  | 18.2.15～16 |
| 健康増進に役立つカンキツフェアー(大阪)         | 果樹研究所・研究支援センター・日園連 | 18.3.1     |
| 健康増進に役立つカンキツフェアー(東京)         | 〃                  | 18.3.7     |

依頼研究員

(平成18年1月1日～平成18年6月30日)

| 氏名    | 所属                           | 試験研究課題                                                           | 受入研究室                       |
|-------|------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 政本 泰幸 | 愛媛県果樹試験場南予分場                 | 常緑果樹遺伝資源の特性調査と評価法の基礎から<br>応用までの習得                                | (旧所属)カンキツ研究部<br>素材開発研究室(興津) |
| 大橋 義孝 | 福島県農業総合センター<br>果樹研究所         | ナシの品種判別と黒星病抵抗性品種育成及びモモ<br>重要形質に関連したDNAマーカー取得の試み                  | 果樹ゲノム研究チーム<br>(つくば)         |
| 澤田 歩  | 青森県農林総合研究センター<br>環境保全部       | 果樹成熟に関連するエチレン生成や酵素遺伝子発<br>現機構等の解明                                | 果樹鮮度保持研究チーム<br>(つくば)        |
| 玉村 壮太 | 石川県農業総合研究センター<br>砂丘地農業試験場    | ブドウの新品種育成に向けた育種技術の習得と効<br>率的な選抜手法に関する研究                          | ブドウ・カキ研究チーム<br>(安芸津)        |
| 佐藤 祥子 | 大分県農林水産研究センター<br>果樹研究所所久見試験地 | 水ストレスを付与した中晩生カンキツの樹体の生<br>理・生態の解明および、高品質中晩生カンキツの安<br>定生産技術に関する研究 | カンキツ研究チーム<br>(口之津)          |
| 坂川 和也 | 福井県農業試験場                     | カキ園の土壌水分が光合成産物の分配に与える影<br>響の解明                                   | ブドウ・カキ研究チーム<br>(安芸津)        |

海外渡航

(平成18年1月1日～平成18年6月30日)

| 氏名     | 所属                | 渡航目的                             | 主要訪問都市   | 期間           |
|--------|-------------------|----------------------------------|----------|--------------|
| 清水 徳朗  | カンキツ研究部(旧所属)      | 第14回植物および動物ゲノム会議                 | アメリカ     | 18.1.13～20   |
| 藤井 浩   | 〃                 | 〃                                | 〃        | 18.1.13～20   |
| 山本 俊哉  | 育種遺伝部(旧所属)        | 第3回バラ科ゲノム会議                      | ニュージーランド | 18.3.16～24   |
| 本多 親子  | 生理機能部(旧所属)        | 〃                                | 〃        | 18.3.15～24   |
| 古藤田 信博 | リンゴ研究部(旧所属)       | 〃                                | 〃        | 18.3.15～24   |
| 中畝 良二  | 果樹病害研究チーム         | 第15回ブドウウイルス病研究集会                 | 南アフリカ    | 18.4.1～7     |
| 藤井 浩   | 果樹ゲノム研究チーム        | 植物オントロジー・アノテーション<br>キャンプ・ワークショップ | アメリカ     | 18.5.29～6.3  |
| 池谷 祐幸  | 研究支援センター<br>遺伝資源室 | バラ科果樹遺伝資源に関する研究<br>資料調査          | イギリス     | 18.5.16～6.3  |
| 羽山 裕子  | 果実鮮度保持研究チーム       | 第7回植物ホルモン エチレンに関<br>する国際シンポジウム   | イタリア     | 18.6.17～6.24 |
| 立木 美保  | 〃                 | 〃                                | 〃        | 18.6.17～6.24 |

※訂正：No.15 海外渡航 (誤)伊藤伝 (正)須崎浩一



果樹研究所ニュース 第16号 (平成18年6月30日)

編集・発行：独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 National Institute of Fruit Tree Science  
事務局：企画調整部 情報資料課 TEL 029-838-6454  
住所：〒305-8605 茨城県つくば市藤本2-1 <http://fruit.naro.affrc.go.jp/>